

地域医療連携協議会では、認知症の医療や介護等に携わる機関の関係者等と定期的に連携協議会を開催し、円滑な連携に向けた情報共有や協議を行っています。

当センターは年二回開催しており、平成30年度第二回目の「地域医療連携協議会」を平成31年2月9日に開催しました。当センターの活動報告、各関係機関から地域における新たな取り組みと課題について情報共有しました。

また、連携協議会の後に東京都立 松沢病院 院長の齋藤正彦先生をお招きし、「認知症の医療と介護」というテーマでご講演頂きました。認知症が注目された背景、症状、治療、ケア、対処方法や関わり方等、幅広い内容でした。身近な具体例でご説明頂き、非常に解りやすくご教授頂きました。認知症の方を生きる主体とし、ご家族へのフォローも含め支援して行くことが大切であると実感しました。

今後も当センターの活動へのご理解とご協力をお願い致します。

認知症看護認定看護師 深津 絃一

平成30年度 第2回
福岡県認知症医療センター
地域医療連携協議会
月例勉強会 合同会



地域医療連携協議会



月例勉強会
講師：東京都立 松沢病院
齋藤 正彦 先生
「認知症の医療と介護」

ひ・と・と・き

ドナルド キーンさんが亡くなった。二〇一二年、東日本大震災に沈んでいた日本に帰化し、九六年の人生を日本人として全うされた。キーンさんはニューヨークに生まれ、学者然とした風貌であるが、日米戦争のさなかレイテや沖縄の前線にいて、沖縄では塹壕に籠った人々に投降を呼びかけたそうである。

ある追悼番組で「ヒロシマ・ナガサキや真珠湾を忘れなければならぬ」という言葉が話題となった。出演者は一様に、戸惑いのコメントであった。

難解な言葉である。日本とアメリカは敵国同士として戦ったという印象があまりに強いが、一五〇年余の国交の中で戦争は三年と九ヶ月なのである。イギリスとフランスは百年戦争を戦ったし、フランスとドイツは十九、二十世紀に四回の戦争を戦っている。

さっきの謎めいた言葉を考えてみよう。

日本人は広島と長崎を、アメリカ人はパールハーバーを忘れていないし、許してもいないだろう。ケネディー、ブッシュ（父）の両大統領はいずれも日本軍に撃沈、撃墜されているのである。しかし、その重い記憶を胸に秘め、共生していかねばと考えているのではないか。かなしみや不幸もまた、人生の一部であるかのように。

雨に打たれ、風に吹かれて色あせてしまった未来志向というコトバに、もし僅かな意味でもあったら、そのようなことであろう。

①

✿ドナルド キーン✿

アメリカ合衆国出身の日本文学者・日本学者。日本文学と日本文化研究の第一人者であり、文芸評論家としても多くの著作がある。
コロンビア大学名誉教授。日本文化を欧米へ紹介して数多くの業績があり数多くの大学や研究施設から様々な受賞経歴を持つ。

編集後記

令和の時代が始まるうとしています。私の好きな黒田官兵衛の言葉に「常に己の進路を求めて止まらざるは水なり」という言葉があります。今後、目まぐるしく変化していく時代に対応していくために必要なのは「柔軟さ」だと思えます。その時代や情勢に合わせて柔軟に形を変え、水の如く前に進み続けることができるようになりたいと思っています。

新年度を迎え、地域生活支援室へ新しい仲間を迎えることになりました。若い職員の手本となれるよう気持ちを引き締めつつ、新しいことにもチャレンジしていきたいと思えます。

今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。



地域生活支援室 精神保健福祉士 福島 孝治

アクセス



医療法人社団
翠会

ゆくはし記念病院のひろば
発行日 平成31年4月11日
発行所 行橋記念病院
(発行人 一甲 則男)
次回発行 令和元年8月28日

「ゆくはし記念病院のひろば」は
行橋記念病院のホームページで
閲覧できます。

<http://www.yukuhashi-hp.or.jp>